

# 農林水産物・食品の輸出拡大に向けて



2026年 3月 3日

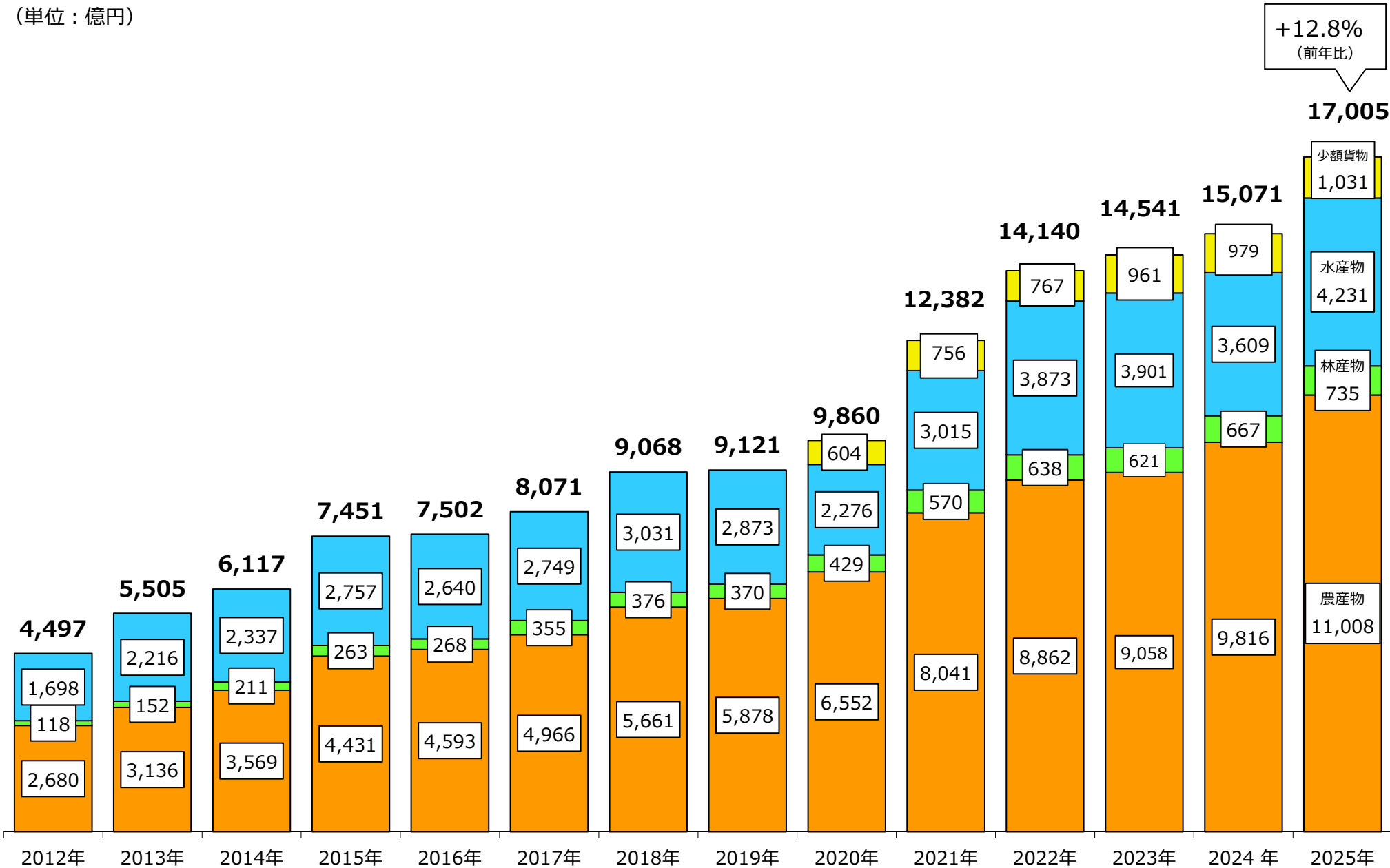
農林水産省

東北農政局

経営・事業支援部 輸出促進課

# 農林水産物・食品 輸出額の推移

(単位：億円)



+12.8%  
(前年比)

# 2025年 農林水産物・食品の輸出額

**2025年1-12月の輸出額は、対前年比+12.8%の1兆7,005億円となりました。**

(2024年1-12月の輸出額：1兆5,071億円)

	金額	前年差	前年比
1-12月累計 (少額貨物を含む)	17,005億円	+1,934億円	+12.8%
うち米国	2,762億円	+333億円	+13.7%
うち香港	2,228億円	+18億円	+0.8%
うち台湾	1,812億円	+109億円	+6.4%
うち中国	1,799億円	+118億円	+7.0%
うち少額貨物	1,031億円	+52億円	+5.3%

## 全体の状況（1-12月）

- ・ 主要輸出先国・地域のすべてで対前年比でプラスを記録し、13年連続で過去最高を更新しました。
- ・ 米国向けについては、4月から関税措置が導入されたものの、緑茶や牛肉に対する旺盛な需要を背景に、対前年比13.7%増加の2,762億円を記録したほか、日本産水産物の輸入規制の影響が残る中国向けについても、対前年比7.0%増加の1,799億円を記録しました。
- ・ 品目別では牛肉、米、緑茶、ぶりなどが、国・地域では、米国、台湾、韓国などが過去最高を記録しました。
- ・ 関係者の聞き取りでは、日本食への関心の高まり、インバウンドによる日本食の認知度向上、健康志向の高まり等を背景に、既存商流における取扱量の拡大や新規商流の獲得などが輸出増加の要因でした。

# 2025年の農林水産物・食品 輸出額（1-12月）（品目別）

品目	金額 (百万円)	前年比 (%)
<b>畜産品</b>	<b>142,769</b>	<b>+2.3</b>
畜産物	117,253	+9.2
牛肉	73,105	+12.8
豚肉	2,977	+25.3
鶏肉	2,548	+2.7
鶏卵	8,140	+14.5
牛乳乳製品	30,482	▲ 0.2
<b>果樹・野菜等</b>	<b>71,071</b>	<b>▲ 2.9</b>
果樹		
りんご	14,369	▲ 28.6
ぶどう	4,669	▲ 21.3
もも	2,474	▲ 16.2
かんきつ	1,436	▲ 3.4
かき・かき加工品	1,118	▲ 1.1
なし	1,141	+11.7
いちご	6,736	+24.6
野菜		
かんしょ・かんしょ加工品	4,465	+24.0
ながいも	3,721	+10.9
メロン	1,200	▲ 5.9
たまねぎ	123	▲ 62.3
<b>穀物等</b>	<b>78,233</b>	<b>+5.5</b>
米（援助米を除く）	13,880	+15.4
バックご飯等	2,022	+31.0
<b>その他農産物</b>	<b>198,496</b>	<b>+27.3</b>
緑茶	72,094	+98.2
花き	7,872	▲ 19.8
切り花	1,491	▲ 9.3
植木等	6,090	▲ 23.1
たばこ	22,844	+14.5

品目	金額 (百万円)	前年比 (%)
<b>加工食品</b>	<b>572,488</b>	<b>+7.2</b>
清涼飲料水	60,434	+5.2
菓子（米菓を除く）	37,384	+8.8
米菓（あられ・せんべい）	5,959	▲ 9.3
ソース混合調味料	72,146	+7.8
味噌	7,142	+13.1
醤油	13,493	+10.7
アルコール飲料	149,477	+11.8
日本酒	45,879	+5.6
ウイスキー	48,979	+12.2
焼酎（泡盛を含む）	1,960	+13.9
<b>農産物計</b>	<b>1,100,821</b>	<b>+12.1</b>
<b>林産物計</b>	<b>73,478</b>	<b>+10.1</b>
製材	10,238	+38.4
合板	8,609	+16.5
丸太	29,850	+5.8
木製家具	8,910	+9.4
<b>水産物（調製品を除く）</b>	<b>353,604</b>	<b>+25.4</b>
ぶり	52,775	+27.4
たい	8,024	+16.2
ホタテ貝	90,587	+30.4
牡蠣	4,242	▲ 12.2
真珠（天然・養殖）	41,167	▲ 0.1
錦鯉	9,973	+37.9
いわし	20,742	+91.8
かつお・まぐろ類	21,537	+7.2
さけ・ます	4,493	▲ 20.5
さば	19,077	+94.5
さんま	876	+101.4
すけとうたら	1,389	+21.1
<b>水産調製品</b>	<b>69,514</b>	<b>▲ 12.0</b>
なまこ（調製）	7,893	▲ 24.8
練り製品	11,768	+4.4
ホタテ貝加工品	11,827	▲ 33.2
牡蠣加工品	1,270	▲ 8.9
<b>水産物計</b>	<b>423,118</b>	<b>+17.2</b>
<b>農林水産物・食品</b>	<b>1,597,417</b>	<b>+13.4</b>

※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成  
 ※「バックご飯等」は、バックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品の合計。政府による食糧援助を除く。  
 ※「ソース混合調味料」は、カレー調製品・マヨネーズ・ドレッシング・酢・ウスターソース類等の合計  
 ※2025年から、「ソース混合調味料」には酢、「製材」には改良木材、「合板」にはLVLやブロックボード等を含む  
 ※農産物計には、詳細の不明な農林水産物37,765百万円を含む

# 2025年1-12月 農林水産物・食品 輸出額（国・地域別）

順位	2025年1-12月（累計）							2025年12月（単月）				
	輸出先	輸出額 （億円）	金額 構成比 （%）	前年比 （%）	輸出額内訳（億円）			輸出額 （億円）	前年 同月比 （%）	輸出額内訳（億円）		
					農産物	林産物	水産物			農産物	林産物	水産物
1	米国	2,762	17.3	+13.7	1,847	88	828	265	+0.6	193	7	65
2	香港	2,228	13.9	+0.8	1,354	20	854	198	▲ 8.9	132	2	65
3	台湾	1,812	11.3	+6.4	1,364	45	403	222	▲ 2.0	170	5	47
4	中国	1,799	11.3	+7.0	1,387	345	67	177	▲ 2.2	132	34	12
5	韓国	1,094	6.8	+20.0	689	40	365	139	+25.1	66	4	70
6	ベトナム	954	6.0	+10.7	453	7	493	121	+27.4	56	1	65
7	タイ	735	4.6	+17.1	379	11	346	72	+26.9	35	1	36
8	シンガポール	563	3.5	+1.2	460	6	98	48	▲ 9.5	36	1	12
9	ロシア	414	2.6	+439.3	413	0	1	4	▲ 90.0	4	0	0
10	オーストラリア	382	2.4	+16.6	329	2	50	35	+19.0	27	0	7
-	EU	997	6.2	+16.2	821	22	154	115	+32.7	95	2	19

輸出額の増加が大きい主な国・地域（2025年1-12月）

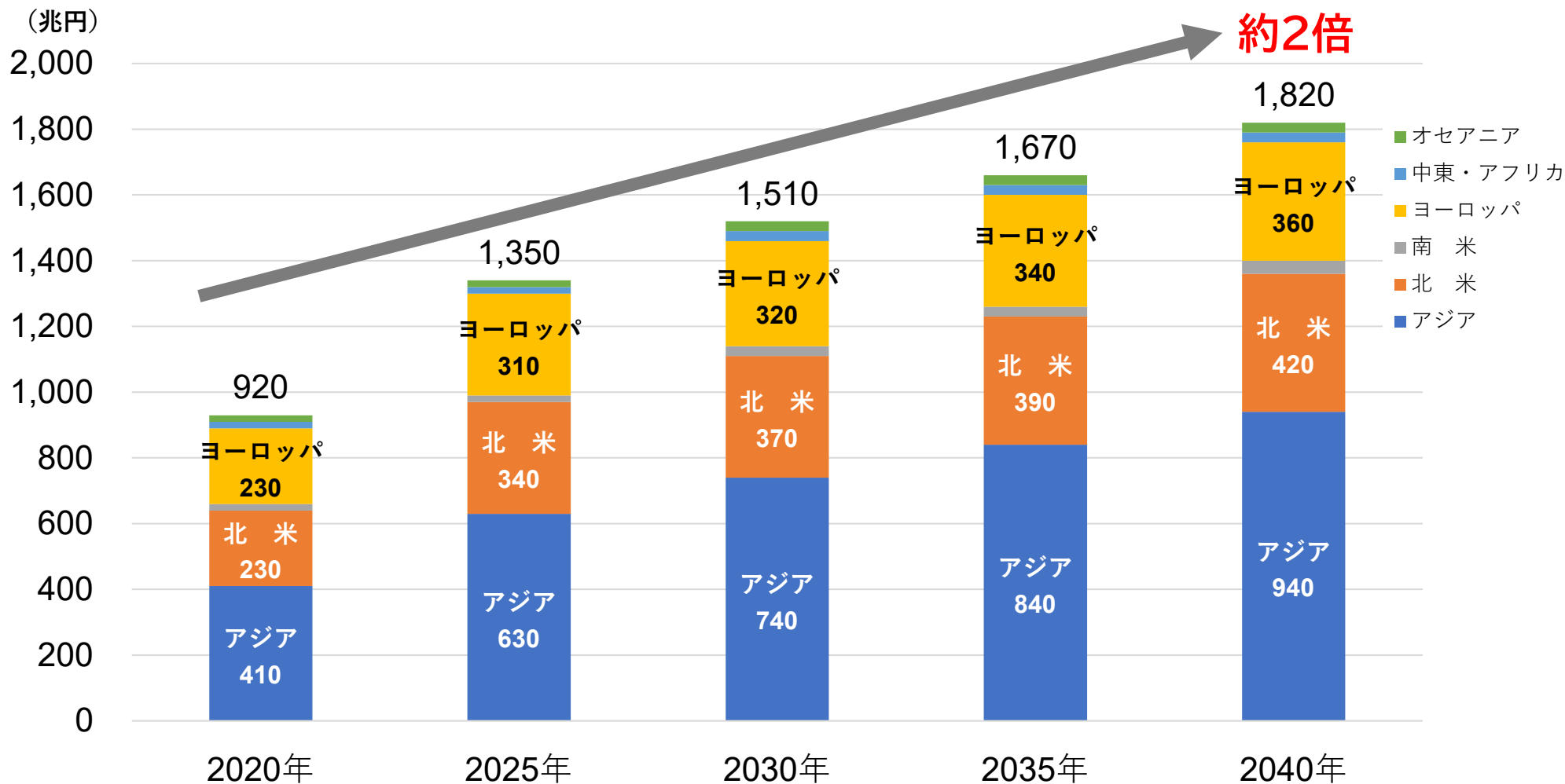
国・地域	増加額	主な増加品目
米国	+333億円	緑茶、ぶり、かに（冷凍）
韓国	+182億円	ぶり、ビール、いわし
中国	+118億円	錦鯉、ビール、丸太

輸出額の減少が大きい主な国・地域（2025年1-12月）

国・地域	減少額	主な減少品目
オマーン	▲ 12億円	ソース混合調味料、醤油
グアム（米）	▲ 7億円	牛肉、菓子（米菓を除く）、りんご
ナミビア	▲ 6億円	錦鯉、かに（冷凍）、かに調製品

# 世界の食市場の規模（推計）

- 世界人口の増加等に伴い**アジア、欧米中心に食市場の拡大**が見込まれる
- 約900兆円（2020年）→約1,500兆円（2030年）→約1,800兆円（2040年）



# 輸出拡大等による「海外から稼ぐ力」の強化

- 農林水産物・食品の輸出拡大を加速すると共に、食品産業の海外展開、インバウンドによる食関連消費の拡大を連携して推進
- これらの相乗効果を通じて、農林水産業・食品産業の「海外から稼ぐ力」を強化（地域の活性化に貢献）

農林水産物・食品の輸出額  
【現状】1.5兆円（2024年）→【目標】5兆円（2030年）

## 農林水産物・食品の 輸出拡大

現地で用いる原材料  
の輸出をけん引

ECサイト・現地スーパー等での  
食体験を通じ、訪日意欲を喚起

日本食・食文化  
の現地での浸透

「本場」の食体験を通じ、  
日本食のファンに

現地の日本食レストラン等での  
食体験を通じ、訪日意欲を喚起

## 食品産業の 海外展開

## インバウンドによる 食関連消費の拡大

食品産業の海外展開による収益額  
【現状】1.7兆円（2023年）→【目標】3兆円（2030年）

「本場」の食体験を通じ、  
日本食を身近に楽しむ

インバウンドによる食関連消費額  
【現状】2.3兆円（2024年）→【目標】4.5兆円（2030年）

# 輸出重点品目（31品目）の選定

○ 海外で評価される日本の強みを有し、輸出拡大余地が大きく、関係者が一体となった輸出促進活動が効果的な31品目を輸出重点品目に選定

輸出重点品目	海外で評価される日本の強み
牛肉	和牛として世界中で認められ、人気が高く、引き続き輸出の伸びに期待。
豚肉、鶏肉	とんかつ、焼き鳥など日本の食文化とあわせて海外の日本人にアピールすることで、今後の輸出の伸びに期待。
鶏卵	半熟たまごが浸透し、生食できる卵としての品質が評価され、更なる輸出の伸びに期待。
牛乳乳製品	香港や台湾で品質が高評価。アジアを中心に輸出に期待。
果樹(りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、なし)、野菜(いちご)	甘くて美味しい食味や外観の良さなど高品質である日本産果実は、アジアを中心に需要が拡大。
野菜(かんしょ・かんしょ加工品、ながいも、たまねぎ等)	日本産のかんしょは甘みが強く、スイーツとしての食べ方の広がりにより、需要が拡大。日本産野菜は、品質の良さからアジアを中心に需要が拡大。
米・バックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品	冷めても美味しい等の日本産米は寿司やおにぎり等に向き、日本食の普及とともに拡大が可能。
茶	日本の緑茶の製法は独自の発展を遂げ高い品質。健康志向や日本食への関心の高まりを背景に輸出拡大。
切り花	外国にはない品種に強み。輸出の伸び率が高い。
清涼飲料水	緑茶飲料など日本の味が人気となり、伸び率が高い。
菓子	日本独自の発展を遂げ、他国にはない独創性。バラエティ豊かな商品とコンテンツの普及とともに海外で人気。

輸出重点品目	海外で評価される日本の強み
ソース混合調味料	カレールウなど日本食の普及とともに日本を代表する味に成長。
味噌・醤油	日本が誇る発酵食品。和食文化の浸透とともに欧米・アジア地域で人気も上昇。
清酒(日本酒)	「S A K E」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中。
ウイスキー	日本産品の品質が世界中でブランドとして定着。
本格焼酎・泡盛	原料の特徴を残すユニークな蒸留酒としての評価があり、今後の輸出拡大に期待。
製材	スギやヒノキは、日本式木造建築だけでなく香りの癒しの効果も人気で、今後の輸出の伸びに期待。
合板	合板の加工・利用技術は、日本の得意分野。日本式木造建築とともに、今後の輸出の伸びに期待。
ぶり	脂がのっている日本独自の魚種。近年、米国等への輸出額が増加。
たい	縁起のよい赤色は中華圏でも好まれる。活魚輸出の増加に期待。
ホタテ貝・ホタテ貝加工品	高品質な日本産ホタテ貝は世界で高く評価。水産物では輸出額ナンバーワン。
牡蠣・牡蠣加工品	身が厚く濃厚な味わいが特徴、アジアでは日本産牡蠣が浸透。今後は生食用の需要が高い欧米などへの販路拡大にも期待。
真珠	真珠養殖は日本発祥。日本の生産・加工技術が国際的に高評価。
錦鯉	日本文化の象徴としてアジア、欧州を中心に海外で人気。

# 認定農林水産物・食品輸出促進団体（認定品目団体）

- 輸出品目ごとに、生産から販売に至る関係者が連携し、輸出の促進を図る法人を、国が輸出促進法に基づき「認定農林水産物・食品輸出促進団体」（認定品目団体）として認定する制度を令和4年10月より開始
- 認定品目団体は、個々の産地・事業者では取り組み難い、非競争分野の輸出促進活動（市場調査、ジャパンブランドによる共同プロモーション等）を行い業界全体の輸出を拡大

## 認定状況

◆ 令和4年10月の制度開始後、28品目15団体を認定。

認定団体名	対象とする輸出重点品目
(一社) 全日本菓子輸出促進協議会	菓子
(一社) 日本木材輸出振興協会	製材、合板
(一社) 日本真珠振興会	真珠
日本酒造組合中央会	清酒（日本酒）、本格焼酎・泡盛
(一社) 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会	米・バックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品
(一社) 全国花き輸出拡大協議会	切り花
(一社) 日本青果物輸出促進協議会	青果物 8品目※1
(公社) 日本茶業中央会	茶
(一社) 全日本錦鯉振興会	錦鯉
全国醤油工業協同組合連合会	醤油
全国味噌工業協同組合連合会	味噌
(一社) 日本ほたて貝輸出振興協会	ホタテ貝・ホタテ貝加工品
(一社) 日本養殖魚類輸出推進協会	ぶり、たい
(一社) 日本畜産物輸出促進協会	畜産物 5品目※2
全日本カレー工業協同組合	ソース混合調味料のうちカレールウ及びカレー調製品

※1 りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、なし、いちご、かんしょ・かんしょ加工品、ながいも、たまねぎ等

※2 牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品

## 輸出拡大に向けた活動

### 全米輸によるコメ・コメ加工品のオールジャパンプロモーション



メキシコでの業界向け日本産米セミナー

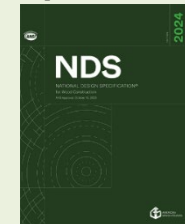


トバイ総領事公邸における現地卸とのマッチングイベント

### 米国製材規格委員会と連携した日本産スギ・ヒノキ製材の性能検証



米国製材規格委員会での検証



建築の設計指針に掲載、構造材として使用可能

### 青果物のリレー出荷によるスイーツ店での長期間フェア

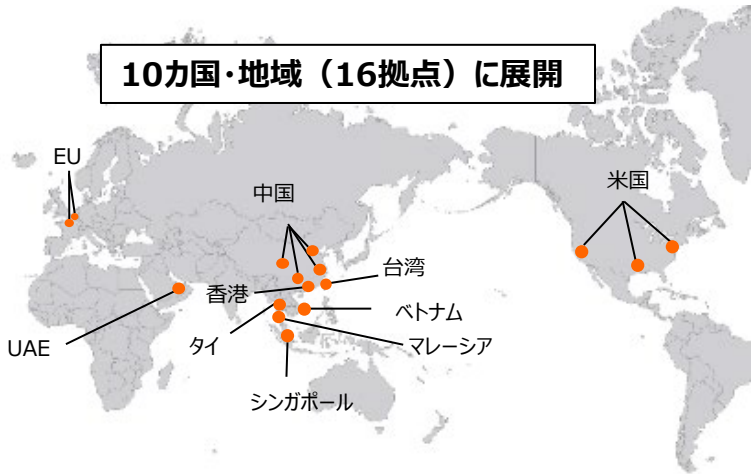


カフェ等の飲食店での日本産青果物の長期間フェアの実証

# 輸出支援プラットフォーム

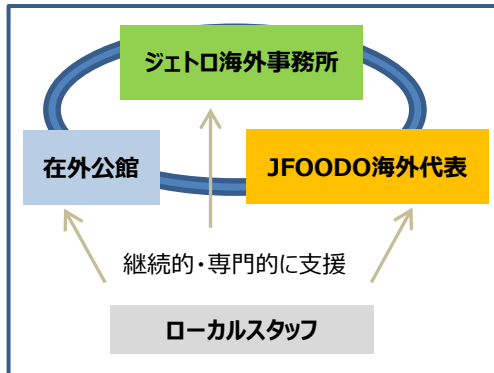
- 輸出支援プラットフォーム(PF)は、農林水産物・食品の輸出拡大や食品産業の海外展開に向けて、**輸出先国・地域において輸出事業者等の食品関連事業者を包括的・専門的・継続的に支援**するため、在外公館・JETRO海外事務所・JFOODO海外駐在員を主な構成員として設立。
- 現地において現地系をはじめとする未開拓の商流の開拓、現地事業者とのネットワークの構築、食品産業の海外展開に向けたサポート体制の強化等、現地発の取組を推進。

## PFの設置国・地域、イメージ



設置国・地域	拠点設置都市
米国	ロサンゼルス
	ニューヨーク
	ヒューストン
タイ	バンコク
シンガポール	シンガポール
EU	パリ
	ブリュッセル
ベトナム	ホーチミン
香港	香港
中国	北京
	上海
	広州
	成都
台湾	台北
マレーシア	クアラルンプール
UAE	ドバイ

### 輸出支援プラットフォーム（輸出先国における公的支援）



現地支援

### 現地のネットワーク構築

- PF協議会
- ・ 現地法人
  - ・ 現地食品事業者
  - ・ 現地レストラン 等

我が国への還元

- ・ 国内へのトレンド情報提供
- ・ 新規規制情報の政府間協議への反映
- ・ 現地での効果的PR実施のための立案

## PFの取組事例

### ○相談対応及び現地発の情報発信

窓口寄せられる相談に対応するほか、市場や規制等の最新情報を国・地域ごとにまとめた「カントリーレポート」を作成し、PFのHP等で公表。

海外でのプロモーションを効果的にするにはどうしたら？

現地の規制につき困っている

PF協議会に参加したい

各PFに相談窓口を設置

### ○オールジャパンでのプロモーション活動への支援

都道府県等の意向を把握した上で、オールジャパンでのプロモーションを実施。



### ○未開拓商流の新規開拓

現地発の戦略の下、非日系の新規商流（小売店やレストランなど）を開拓。



### ○現地関係者とのネットワーキング

現地関係者※と連携し、販促に繋がるイベントの開催や、ロビング活動を実施。

※小売店、レストラン、メーカー、料理学校など



青果物(40産地)		
りんご	株式会社日本農業①	青森県
	全国農業協同組合連合会山形県本部②	山形県
	つがる弘前農業協同組合③	青森県
	津軽みらい農業協同組合③	青森県
ぶどう	アグベル株式会社①	山梨県、茨城県
	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アルプス市・JA梨北)①	山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会①	山梨県
	株式会社新亜商事②	山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)②	岡山県
	全国農業協同組合連合会長野県本部②	長野県
	ジャパンフルーツ株式会社③	栃木県、長野県
	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アルプス市・JA梨北)①	山梨県
	笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会①	山梨県
	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山)②	岡山県
もも	和歌山県農業協同組合 (JAわかやま)③	和歌山県
	えひめ愛フード推進機構①	愛媛県
	株式会社ローソンファーム熊本①	熊本県
	みかん輸出コンソーシアム①	宮崎県、和歌山県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県
柿	Jewelry Farm Group 株式会社③	福岡県
	和歌山県農業協同組合 (JAわかやま)③	和歌山県
	みなみ信州農業協同組合①	長野県
	農事組合法人富山干柿出荷組合連合会②	富山県
かき加工 (干し柿)	志賀農業協同組合③	石川県
	株式会社イチゴラス①	熊本県、三重県、兵庫県
	サブライジングファーマーズ株式会社①	熊本県
	静岡県経済農業協同組合連合会①	静岡県
いちご	島原雲仙農業協同組合①	長崎県
	熊本県経済農業協同組合連合会③	熊本県
	北部九州いちご輸出促進協議会③	福岡県、佐賀県
	かとり農業協同組合①	千葉県
かんしょ	株式会社くしまアオイファーム①	宮崎県、北海道、茨城県、熊本県、鹿児島県
	ジャパンベジタブル株式会社①	静岡県
	Japan potato有限会社①	鹿児島県、千葉県、茨城県
	なめがたしおさい農業協同組合甘藷部会連絡会①	茨城県
玉ねぎ	農家ソムリエーズ①	徳島県
	有限会社南橋商事①	鹿児島県、宮崎県
	ホクレン農業協同組合連合会②	北海道
	静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所①	静岡県
メロン	大分県農業協同組合日田梨部会③	大分県
	藤屋わさび農園 有限会社③	長野県

林産物(2産地)		
製材	桑原木材株式会社②	愛知県、岐阜県、三重県、長野県
	江与味製材株式会社③	岡山県

米(9産地)		
米	株式会社百笑市場①	茨城県
	みやぎ登米農業協同組合①	宮城県
	全国農業協同組合連合会滋賀県本部(JA全農しが)②	滋賀県
	新潟クボタグループ(株)新潟クボタ(株)新潟農商)②	新潟県
	ホクレン農業協同組合連合会②	北海道
	みな穂農業協同組合②	富山県
	秋田県農畜産物輸出促進協議会「グローバルリーチAKITA」③	秋田県
	芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会③	北海道
	松原米穀契約生産者組合③	北海道

花き(4産地)		
切り花	愛知みなみ農業協同組合②	愛知県
	高知市農業協同組合③	高知県
	赤石五葉松輸出振興組合①	愛媛県、香川県
	盆栽	高松盆栽輸出振興会①



茶(12産地)		
茶	オーガニックティーミヤザキ①	宮崎県
	株式会社大石茶園①	福岡県、静岡県、三重県、京都府、熊本県、宮崎県、鹿児島県
	株式会社流通サービス①	静岡県
	京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会①	京都府
	静岡オーガニック抹茶株式会社①	静岡県
	丸山製茶株式会社①	静岡県
	鹿児島県経済農業協同組合連合会②	鹿児島県
	株式会社まるゑい②	三重県
	池田製茶株式会社③	鹿児島県
	株式会社あいや③	愛知県
	丸原水沢製茶株式会社③	三重県
	有限会社萩村製茶③	三重県

畜産物(25産地)		
牛肉	秋田牛輸出促進コンソーシアム①	秋田県
	カミチク食肉輸出コンソーシアム①	鹿児島県
	JA食肉かごしま輸出コンソーシアム①	鹿児島県
	スターゼンミートコンソーシアム①	鹿児島県、宮崎県
	山形県食肉流通・輸出促進コンソーシアム①	山形県
	黒牦牛輸出促進コンソーシアム②	熊本県、宮崎県、鹿児島県、大分県
	ホクレン食肉輸出コンソーシアム②	北海道
	宮崎県牛肉輸出コンソーシアム②	宮崎県
	ブランドおおいた輸出促進協議会畜産部会②	大分県
	和牛マスター輸出拡大コンソーシアム②	兵庫県、北海道、岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、長野県、滋賀県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県
	いわて農林水産物国際流通促進協議会牛肉輸出拡大コンソーシアム③	岩手県
	ぐんまブランド牛肉輸出コンソーシアム③	群馬県
	とちぎ牛肉輸出拡大コンソーシアム③	栃木県
	飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム③	岐阜県
	豚肉	ホクレン食肉輸出コンソーシアム②
鶏肉	オヤマ輸出コンソーシアム①	岩手県
	徳島県阿波尾鶏ブランド確立対策協議会①	徳島県
鶏卵	株式会社エムイーシーフーズ①	千葉県
	株式会社トマル①	群馬県、栃木県
牛乳 乳製品	JA全農たまご株式会社①	青森県、岩手県、大分県、福岡県、鹿児島県
	熊本県酪農業協同組合連合会②	熊本県
	大山乳業農業協同組合②	鳥取県
	北海道乳業株式会社輸出促進協議会②	北海道
	雪印メグミルクコンソーシアム②	北海道
	よつ葉輸出促進協議会②	北海道

水産物(16産地)		
ぶり	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体②	愛媛県
	東町漁業協同組合②	鹿児島県
	大分県漁業協同組合②	大分県
	尾鷲物産株式会社②	三重県、愛媛県、高知県、香川県
たい	グローバル・オーシャン・ワークスグループ②	鹿児島県
	三重県漁業協同組合連合会②	三重県、鹿児島県、長崎県、愛媛県
	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体②	愛媛県
牡蠣	愛南漁業協同組合②	愛媛県
	株式会社播磨灘②	兵庫県
	クニヒロ株式会社③	広島県
	日本石花と仲間たち (英名: Japan Oysters & Co.)③	神奈川県、北海道、岩手県、宮城県、三重県、兵庫県、徳島県、香川県、広島県、福岡県、大分県、長崎県
カンパチ	垂水市漁業協同組合②	鹿児島県
クロマグロ	辻水産株式会社②	愛媛県
シマアジ	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体②	愛媛県
ホタテ	株式会社 山神③	青森県
煮干魚介類	尾道海産株式会社③	広島県

※1:上記事業者等を中心とした産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定。

※2: ①: 第1回認定、②: 第2回認定、③第3回認定

**新潟県 (錦鯉)**  
 <新潟県、新潟県内水面試験場、養鯉業・流通業者等が参画>

- ▶新潟県内水面水産試験場にて確立された梱包環境改善技術を用いて、輸送時間の延長を検証

**新潟県 (コメ)**  
 <新潟県、JETRO、クボタグループ、生産者、市、JA等が参画>

- ▶高温耐性新品種の栽培実証において、生育調査や生産コスト調査、品質食味調査を実施
- ▶産地と輸出事業者の連携による、生産・輸送コストの低減やアメリカ向け新規商流の構築

**グローバルもも輸出産地協議会 (もも)**  
 <アグベル株式会社、周辺生産者、金融機関、物流機関等が参画>

- ▶収量・品質の安定化を図るため、耕作放棄地を活用した生産園地の拡大
- ▶輸出ロット拡大と販路拡充を推進するため、直接輸出体制の構築やローカル市場の新規開拓

**グローバルぶどう輸出産地協議会 (ぶどう)**  
 <アグベル株式会社、株式会社アグベル桜川、金融機関、物流機関、その他生産者等が参画>

- ▶輸出相手国の残留検査に対応するためハウス型雨よけを導入し、良品のぶどうの大ロット生産を実施
- ▶専用鮮度保持資材の開発及び実証

**静岡県かんしょ輸出促進協議会 (かんしょ)**  
 <ジャパンベジタブル株式会社、株式会社日本農業、静岡県、タタラ商店が参画>

- ▶ダブルキュアリング処理による日持ち向上効果の検証と流通試験を実施

**静岡茶輸出拡大協議会 (茶)**  
 <静岡県、茶業関係団体、茶商、生産者等が参画>

- ▶有機栽培への転換や、有機転換による土壌の細菌数やバイオマス量などへの影響の評価、及び有機碾茶生産に適した被覆資材の検証
- ▶海上輸送時の高温による品質劣化を防ぐために、断熱資材を用いた品質維持・単価向上効果の検証

**アスノツガル輸出促進協議会 (りんご)**  
 <株式会社日本農業、株式会社RED APPLE が参画>

- ▶高密度栽培の推進及び生産オペレーションの改善
- ▶大型コンテナを導入し、リフト運搬を実証

**芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会 (コメ)**  
 <株式会社芦別 RICE、有限会社あしべつグリーンファーム、株式会社増田農園等が参画>

- ▶温室効果ガス抑制の取組みや、生産向上のための技術提供及び農業資材等の共同購入
- ▶食感測定器のリース導入による精米の品質管理体制の強化

**北海道農畜産物・水産物輸出推進協議会 (かんしょ・たまねぎ・コメ)**  
 <北海道、ホクレン、JA北海道中央会、JETRO等が参画>

- (かんしょ)  
▶鮮度保持輸送実証試験を行い、品種・時期等の品質差を検証

- (たまねぎ)  
▶高付加価値につなげるため、輸送時の品質劣化(カビ等)対策として、品種や栽培方法を検討

- (コメ)  
▶試験圃場を設け、減農薬栽培体系を実証するとともに、EU基準での残留農薬検査を実施

**山形県 (コメ)**  
 <山形県、県内流通事業者、生産者が参画>

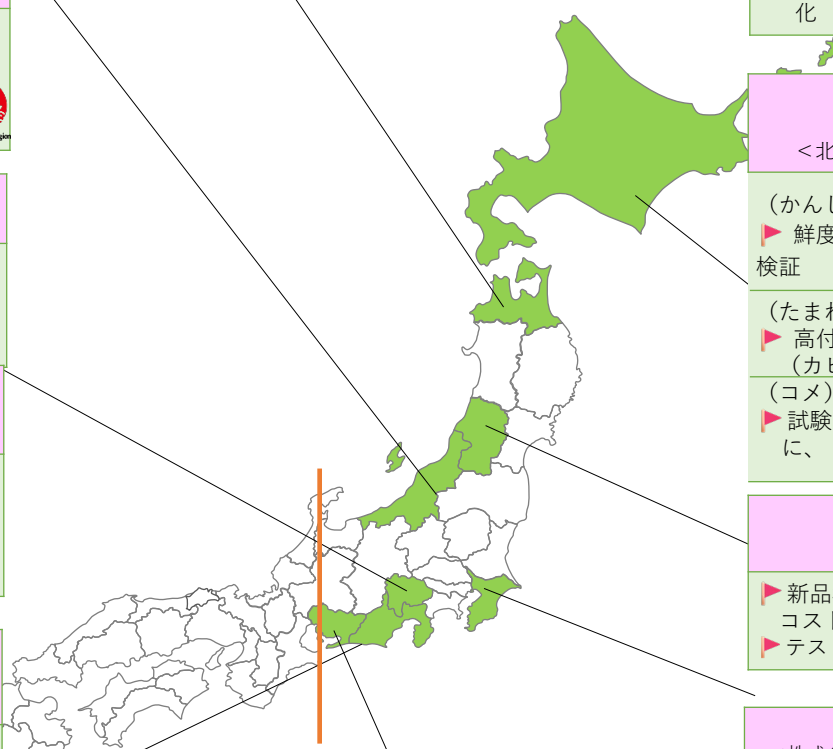
- ▶新品種「ゆきまんてん」の省力技術や作業時間及び生産コストの検証
- ▶テスト輸出及び現地における求評調査の実施

**千葉県産米輸出拡大協議会 (コメ)**  
 <株式会社つばめ農園、豊田通商株式会社、その他生産者が参画>

- ▶多収品種「ハイブリッドとうごう」シリーズの直播栽培による低コストの実証
- ▶小ロット配送(生産者⇒一次倉庫)と大ロット配送(一次倉庫⇒倉庫 or 実需者)の併用による輸送コスト削減の実証

**愛知県 (イチゴ、メロン、キャベツ等)**  
 <豊橋田原広域農業推進会議、豊橋温室園芸農業協同組合、愛知みなみ農業協同組合、あいち豊田農業協同組合等が参画>

- ▶輸出推進体制の整備により、新たに輸出に取り組む産地・生産者を掘り起こし、県内での品種や産地リレー等を実施
- ▶産地から現地販売店まで、地元インフラ(中部国際空港、名古屋港)を活用した輸出ルートを構築



: 認定フラッグシップ輸出産地が含まれているもの

## 秋田県 (ねぎ、りんご)

<全国農業協同組合連合会秋田県本部 等が参画>

### ▶ (ねぎ)

- ・高品質なねぎ生産のための病害抑制に関する栽培方法の実証。
- ・低コストかつ輸送中の品質劣化を防ぐ輸送方法の検証

### (りんご)

- ・台湾の残留農薬規制に対応した病虫害防除体系の実証
- ・収穫後および貯蔵期間中の果実における残留農薬分析

## 新篠津村輸出協議会 (米 (GABA米・精米))

<新篠津村農業協同組合,北海道,新篠津村,株式会社インターリージョン,学校法人 略農学園 (略農学園大学) が参画>

### ▶ 【実証：北海道】

- ・品種転換による高たんぱく米の計画的栽培
- ・フランス輸出用特別栽培米への転換
- ・GABA米通年供給にむけた冷凍保管の実証

## やまがた尾花沢・東根・天童フルーツ輸出協議会

### 「百笑苦楽分」(さくらんぼ、もも、ラフランス、スイカ)

<株式会社あさあげ農場、株式会社 FARMER'S、水戸農園 他が参画>

### ▶ 【実証：山形県】

- ・完熟果実の急速冷凍による品質を保持しつつ海外に届ける冷凍供給体制の検証と統一生産基準・出荷ルール の策定
- ・鮮度保持型パッケージの開発し、物流・販路の最適化を通じた輸出体制構築

## 宮城県JA農産物輸出促進協議会 (さつまいも)

<全国農業協同組合連合会宮城県本部 等が参画>

### ▶ 【実証：宮城県】

- ・台湾向け基準に則した残留農薬検査による輸出検討
- ・輸出計画数量を販売先と早期に共有するため、QRコードによる入出庫・在庫管理システムを導入
- ・製品ロス率低減のため、台湾での保管販売を検証

## 北信濃輸出促進協議会 (ぶどう、もも、りんご、すもも)

<中野市役所、浅沼果樹園、三井農園、川島農園合同会社、合同会社 S O W、株式会社eff、日本ゴールド株式会社株式会社、WAJIN TRADING 他が参画>

### ▶ 【実証：長野県】

- ・輸出相手国・地域の残留農薬基準に対応するため、残留農薬分析を行い、使用農薬と防除回数 の見直しを実施
- ・輸送中の鮮度を維持するための保水キャップの開発テスト輸送を実施

## 富山干柿出荷組合連合会 (かき加工品)

<(農)富山干柿出荷組合連合会、(農)富山あんぼ柿共同加工センター、福光農業協同組合、なんと農業協同組合、南砺市、富山県が参画>

### ▶ 【実証：富山県】

- ・冷凍輸出に対応した乾燥・加工技術の検討、実証の実施
- ・干し柿・あんぼ柿の冷凍・冷蔵輸送、販売による検証

## 長野県 (市田柿、ぶどう)

<長野県農産物等輸出事業者協議会、みなみ信州農業協同組合、八十二Link Nagano株式会社が参画>

### ▶ 【実証：長野県】

- ・輸出に係る市田柿の生産拡大を図るため、品目転換による園地整備を実施
- ・産地からインドネシアまでの一貫した新たな輸出物流体制構築に向けた輸送試験

## アスノヤマト輸出促進協議会 (ぶどう、キウイ)

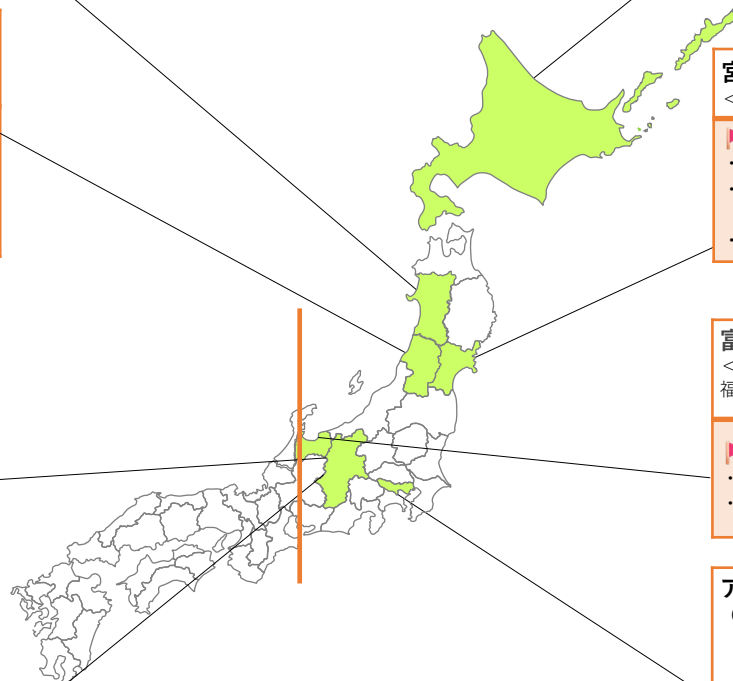
(2品目共通) (株)日本農業  
 (ぶどう) (株)日本農業、ジャパンフルーツ(株)、REACT(株)  
 (キウイ) (株)日本農業、ジャパンフルーツ(株)、Orchard & Technology (株) が参画>

### ▶ (ぶどう) 【実証：栃木県】

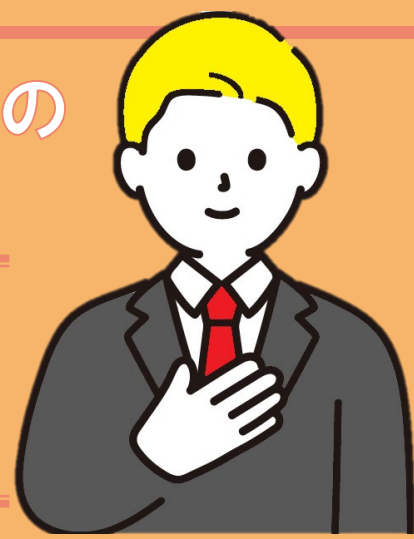
- ・スマート農業機械の自動走行を活用した取組
- ・台湾向け産地リレー輸出 (航空便) の実証

### ▶ (キウイ) 【実証：香川県、群馬県】

- ・ストリングング技術の確立と標準化
- ・新品種 (自社育種・海外新品種) の育成による香川県外での適応性の強化
- ・品質維持のため、予冷・追熟設備の検討及び港までの低温物流の確立



# 米国等への農林水産物・食品の輸出に取り組む皆様へ



関税措置で逆風が吹く米国をはじめとする海外市場での輸出拡大を目指す事業者の皆様の課題・実情に応じて支援します。

## 新たな補助金（重要市場の商流維持・拡大緊急対策）の支援内容

### 販路拡大



- 現地日系外食チェーン、小売店、EC等でのプロモーション、フェアの実施
  - 現地バイヤーや卸と連携した商談会への参加や主催
- 等

### 高付加価値化



- 輸出先ニーズを踏まえた新商品の開発
  - テストマーケティング
  - 小売等の独自基準認証の取得
- 等

### コスト削減



- 省人化のための機器導入
  - 共同物流構築
- 等

**対象者** 輸出に取り組む事業者（要件（裏面）を満たせば**単独で申請**いただけます）

**公募時期**  
決まり次第  
更新します

### 補助対象経費

重要市場の商流維持・拡大に必要な経費

- 人件費
- 印刷製本費
- 旅費
- 機器・備品費
- 広告費
- 認証取得費
- 輸送費
- その他

### 補助率・上限

**定額**

（機器の購入、認証等取得は2分の1以内）

**上限**：1案件あたり1,000万円

**お問い合わせ**

農林水産省  
輸出・国際局 輸出企画課  
TEL：03-6744-0481（直通）



実施要領



輸出拡大実行  
戦略について



認定品目団体  
について



輸出基金  
について

## 主な要件

1. **重要市場**※<sup>1</sup>における農林水産物・食品の輸出拡大を図る取組であること
2. 取り組む国・地域において、直近2年以上の**輸出実績**があること
3. **認定品目団体の会員**※<sup>2</sup>による取組又は当該**会員と連携**した取組であること

### ※1「重要市場」とは

農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略において、**品目別輸出目標が設定されている国・地域**

(重要市場の例)

牛肉	:	米国、EU等、中国、台湾、香港、イスラム諸国	
米・米加工品※	:	米国、EU・英国、シンガポール・台湾・香港、中国、カナダ	
茶	:	米国、EU、ASEAN、台湾、カナダ	
菓子	:	中国、米国、香港、台湾、韓国	他27品目

※パックご飯・加工米飯・米粉及び米粉製品

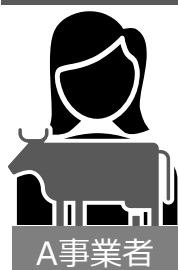
[詳細▶表面QRコード（農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略）](#)

### ※2「認定品目団体の会員」の範囲

- ①会員 ②会員の構成員 ③会員又は構成員となるための申請が受理されている者

[詳細▶表面QRコード（認定品目団体について）](#)

## 具体的な申請例



#### Case 1

- ・米国への牛肉輸出を拡大したい
- ・牛肉を米国に輸出している
- ・牛肉の認定品目団体に所属

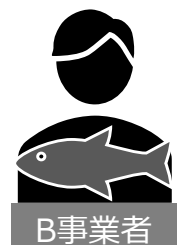
- ←米国は牛肉の重要市場
- ←米国への輸出実績
- ←会員による取組

要件1○

要件2○

要件3○

単独で要件をすべて満たしているため、  
**A事業者様のみで本事業に申請いただけます。**



#### Case 2

- ・米国へのマグロ輸出を拡大したい
- ・マグロを米国に輸出している
- ・認定品目団体が無い

- ←マグロに重要市場は設けられていない
- ←米国への輸出実績
- ←会員による取組ではない

要件1ー

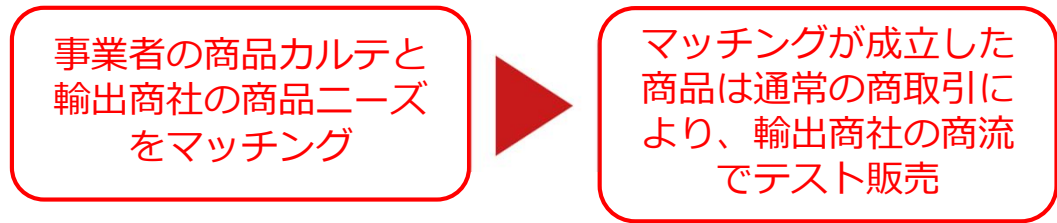
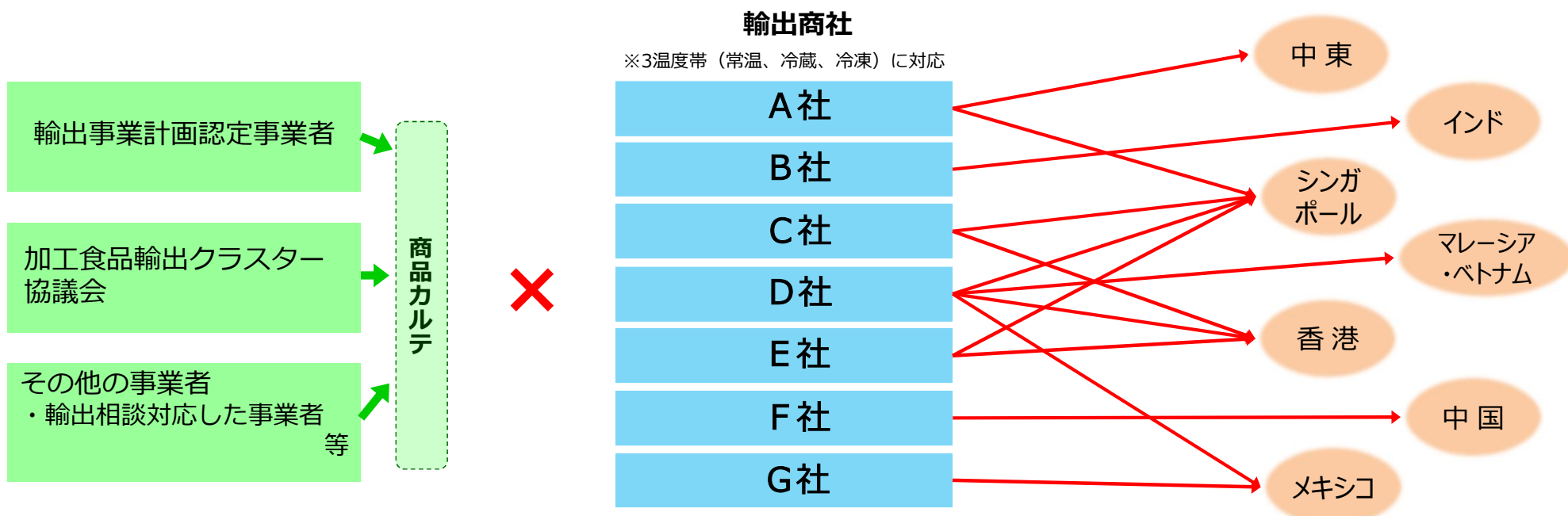
要件2○

要件3ー

要件1○ B事業者様は要件1、3を満たしていませんが、  
**米国が重要市場であるコメの認定品目団体の会員と連携する取組で本事業に申請いただけます。**

# 【東北農政局GFP事業】

## ～東北からの新たなサプライチェーン構築を目指したトライアル輸出の実施～



### H社(日系小売店)企画

